

## 母乳栄養の継続期間と影響因子

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 山内 芳忠

### 要約：

1. 1ヵ月児の母乳栄養から混合へは情報不足によるものが多かった。
2. 遵延性黄疸は母乳栄養の継続に障害となっておらず、母乳の一時中止例や治療例もなかった。
3. 母親の職場復帰、薬剤使用、アルコール、タバコなどで早期に母乳中止となった例はみられなかった。
4. 1歳児の1/3以上で母乳、2/3以上で混合と母乳への依存率が高かった。
5. 病的新生児の母乳栄養率は低く継続期間も短かった。

見出し語：新生児、母乳栄養、母乳栄養の継続、影響因子

**目的：**母乳栄養児の成長と発達並びにいつまで母乳栄養が継続されているかまた継続期間に影響する因子について研究する。

今回は新生児と乳児における母乳栄養の継続期間の実際とその影響因子について検討した。遵延性黄疸の頻度と遵延性黄疸が母乳継続で問題になるかもしらべた。

**対象：**1991.1.1 - 1991.12.31 までに国立岡山病院産科で出生した成熟新生児のうち乳児健診（1、3、6、9ヵ月と1歳）で母乳栄養の継続の有無とミノルタ黄疸計で黄疸測定そして母乳中止や人口との混合栄養への変更とその理由についてたずねた。

NICU入院児（病的成熟児）の母乳栄養率につ

いても検討した。

**結果：**健康乳児の母乳栄養率の推移については表1にしめた。1ヵ月で母乳から人口栄養への変更理由は母乳分泌不良であった。

1ヵ月で母乳から混合栄養への変更理由としては児が泣く、寝ない、欲しがらぬなどの様子から母乳が足りない？との自己判断によるものが多かった。

しかし体重測定や医師への相談はなされていなかった。

栄養法と遵延性黄疸の頻度

その結果は表2にしめた。しかし遵延性黄疸のため母乳栄養の一時中止や治療例はなかった。

NICU入院児の母乳栄養率の推移は表3にしめた。

考 察 :

母乳栄養の継続のための今後の対策

1. 生後二週間での育児相談や栄養指導が大切である。電話相談や訪問看護も必要である。(保健婦、助産婦、看護婦の協力)
2. 病院関係者や担当医師の母乳栄養に対する認識を高める事も大切である。

(小児科医の役割)

3. 母乳栄養総合支援システムをつくる。  
それには乳房外来(外科、産科、小児科、産婦)の設置、母親教室への小児科医の参加そして母乳支援団体(ボランティア)をつくること  
が大切である。

表 1 母 乳 栄 養 率

	母 乳 の み	混 合	人 口 の み
1 ヲ月	170 / 210 (80.9%)	34 / 210 (16.2%)	6 / 210 (2.9%)
3 ヲ月	89 / 132 (67.4%)	32 / 132 (24.2%)	11 / 132 (8.3%)
6 ヲ月	52 / 94 (55.3%)	27 / 94 (28.7%)	15 / 94 (15.9%)
9 ヲ月	13 / 31 (41.9%)	11 / 31 (35.5%)	7 / 31 (22.6%)
12 ヲ月	26 / 72 (36.1%)	26 / 72 (36.1%)	20 / 72 (27.8%)

表 2 栄養法と遷延性黄疸の頻度

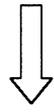
T c B > 15			
1 ヲ月	母乳のみ	混 合	人工のみ
	76 / 170	7 / 34	0 / 6
	(44.7%)	(20.6%)	(0.0%)
T c B > 20			
	母乳のみ	混 合	人工のみ
1 ヲ月	29 / 170	2 / 34	0 / 6
	(17.0%)	(5.9%)	(0.0%)
3 ヲ月	(0%)	(0%)	(0%)

表 3 NICU 入院児の母乳栄養率

	母乳のみ	混 合	人工のみ
1 ヲ月	26 / 38	11 / 38	1 / 38
	(68.4%)	(28.9%)	(3.3%)
3 ヲ月	14 / 24	5 / 24	5 / 24
	(58.3%)	(20.8%)	(20.8%)
6 ヲ月	3 / 19	6 / 19	10 / 19
	(15.8%)	(31.5%)	(52.6%)
9 ヲ月	3 / 15	4 / 15	8 / 15
	(20.0%)	(26.6%)	(53.3%)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

1. 1 ヶ月児の母乳栄養から混合へは情報不足によるものが多かった。
2. 遵延性黄疸は母乳栄養の継続に障害となっておらず、母乳の一時中止例や治療例もなかった。
3. 母親の職場復帰、薬剤使用、アルコール、タバコなどで早期に母乳中止となった例はみられなかった。
4. 1 歳児の 1/3 以上で母乳、2/3 以上で混合と母乳への依存率が高かった。
5. 病的新生児の母乳栄養率は低く継続期間も短かった。